

女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究

「女性とキャリアに関する調査」結果報告書

平成 23 年度～平成 27 年度
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成 25 年 3 月 25 日

日本女子大学
現代女性キャリア研究所
(研究代表者：大沢真知子)

報告書の発刊によせて

本報告書は、現代女性キャリア研究所が、2011年度より文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受け、5年間の予定で実施している「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」の第2テーマ「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」の一環として行われた「女性とキャリアに関する調査」の報告である。

「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」は、女性の高学歴化や労働市場への参加が増大してきたわが国において、なおM字カーブが解消されない理由を解明し、いったんリタイアした女性が再就職するための支援を大学がどのように担っていけるかを模索しようとするものである。

本学には、大卒女性の再就職支援を行う「リカレント教育課程」が2008年4月1日より大学の課程として日本で初めて認可設置されている。また2010年からは、「教職教育開発センター」が開設され、女性教員のサポートやネットワーク作りに乗り出している。これらの機関における再就職支援プログラムの具体的な開発が本研究のゴールとなるが、このためにわれわれは三つの調査を計画した。一つが本報告書に掲載されている一般の高学歴女性のキャリア調査、二つ目が本学卒業生の内、教職免許取得者への調査、三つ目がリカレント教育課程在籍者・修了者への調査である。本報告にあたる一般高学歴女性のキャリア調査は、後の二つの調査のベースとなるものであるとともに、必ずしも十分解明されているとは言い難い高学歴女性のライフコースとキャリア選択の条件を実証的に明らかにしようとした。

そこで、研究全体のまとめに至る前に、第一段階の調査のみを、まずはひとつの報告として公刊し、大方のご批判・ご教示を乞う次第である。

現代女性キャリア研究所所長

岩田正美

はじめに

少子高齢化が進展する日本にとって、女性の能力開発が持続的な経済発展の鍵を握る。男女雇用機会均等法が施行されて以来、女性の高学歴化が急速に進展し、卒業後に就職することが当たり前の社会になったにもかかわらず、その能力が社会の中で十分に活用されているとはいいがたい。

管理職に占める女性比率や取締役に占める女性の比率は国際的にみても低い。また、結婚や出産で退職する女性の割合も高く、その傾向に変化がみられない。つまり、高学歴の女性はふえているものの、それが長期にわたってキャリア形成する女性の増加にはつながっていない。そのために、せつかくの教育が社会に十分に還元されていないのである。

他方、高学歴の女性の卒業後のキャリアが十分に解明されてきたわけではない。とくに、近年、女性のキャリアは多様化しており、その多様性を理解することなしに、支援策を論じることはできない。

また、男性の職場環境が大きく変化するなかで、それが女性の職業意識や就業にも大きな影響を与えている。

本調査は、短期大学（高等専門学校含む）以上を卒業した高学歴女性を対象に、その多様なライフスタイルをあきらかにし、女性の能力形成を支援するためにどうしたらいいのかを考えるために、実施するものである。

研究代表者

大沢真知子

目次

報告書の発刊によせて 岩田正美

はじめに 大沢真知子

I. 調査の概要

- 1. 調査の目的と背景.....13
- 2. 調査対象と方法.....13
- 3. 報告書の構成.....14

II. 調査結果（単純集計表）

- 1. 対象者の概要.....19
- 2. 5つのライフコース・パターン.....23
- 3. 就業プロセス.....24
- 4. 現非就業層の就労意向.....47
- 5. 資格などについて.....53
- 6. 就業意識.....60
- 7. 現有業層の転職意向.....65
- 8. 社会活動と再就職支援.....69
- 9. 家族状況.....74

III. 5つのライフコース・パターン別のクロス集計.....97

IV 考察

女性の再就職支援と大学の役割 大沢真知子・盧回男……………	151
初職継続者の特徴と課題 —それでも遠い「ワーク・ライフ・バランス」— 三具淳子……………	167
就労意欲と断続するキャリア —初職離職、転職、再就職行動に着目して— 杉浦浩美……………	183
「氷河期世代」における「不安」の中身 —「女性とキャリアに関する調査」の自由記述分析から— 仲田周子……………	203
離職女性における就業意欲3パターンの特徴 御手洗由佳……………	211

V. 資料……………227

1. 度数分布表
2. 大学の再就職支援（自由記述）コーディング表（Q.56）
3. 職業生活や家庭生活における希望や不安（自由記述の一部）（Q.83）
4. 調査票

図一覧

1. 対象者の概要	19
図 1-1 年齢	
図 1-2 現在の就業形態	
図 1-3 最終学歴	
図 1-4 最終学歴の専攻	
2. 5つのライフコース・パターン.....	23
図 2-1 5つのライフコース・パターン	
3. 就業プロセス	24
図 3-1 正社員・正規職員のみ ^の 現職の就業先（従業員規模）	
図 3-2 現職の仕事内容	
図 3-3 現職での仕事の裁量	
図 3-4 現職の満足度	
図 3-5 初職の就業形態	
図 3-6 正社員・正規職員のみ ^の 初職の就業先（従業員規模）	
図 3-7 初職の仕事内容	
図 3-8 初職をやめた理由	
図 3-9 初職での仕事の裁量	
図 3-10 初職の満足度	
図 3-11 もっとも勤続年数の長い仕事	
図 3-12 最長職の就業形態	
図 3-13 正社員・正規職員のみ ^の 最長職の就業先（従業員規模）	
図 3-14 最長職の仕事内容	
図 3-15 最長職をやめた理由	
図 3-16 最長職の満足度	
図 3-17 転職・再就職の回数	
図 3-18 転職・再就職への評価	
図 3-19 転職・再就職による職種の変化	
図 3-20 転職・再就職時に重視した条件	
図 3-21 転職・再就職時に重視した条件への評価	
図 3-22 転職・再就職のための準備	
図 3-23 初職継続理由	
4. 現非就業層の就労意向	47
図 4-1 現非就業層の就業意欲	

- 図 4-2 現非就業層の就職・再就職への不安
- 図 4-3 現非就業層の就業希望理由
- 図 4-4 就職・再就職の際重視する条件
- 図 4-5 就職・再就職への準備
- 図 4-6 仕事をしたくない理由

5. 資格などについて……………53

- 図 5-1 資格
- 図 5-2 資格の効果
- 図 5-3 資格の取得時期
- 図 5-4 社会人入学経験
- 図 5-5 社会人入学で学んだ分野
- 図 5-6 社会人入学をした時期
- 図 5-7 社会人入学の目的

6. 就業意識……………60

- 図 6-1 学卒時の理想のライフコース
- 図 6-2 就業の意義
- 図 6-3 学卒時の理想の働き方
- 図 6-4 現時点の理想の働き方
- 図 6-5 仕事を通して得たもの

7. 現有業層の転職意向……………65

- 図 7-1 就業に対する見通し
- 図 7-2 有業層の転職・再就職希望理由
- 図 7-3 休業期間希望理由
- 図 7-4 転職・再就職への準備

8. 社会活動と再就職支援……………69

- 図 8-1 社会活動
- 図 8-2 社会活動で得たもの
- 図 8-3 再就職支援
- 図 8-4 大学の再就職支援

9. 家族状況……………74

- 図 9-1 婚姻状況
- 図 9-2 同居者
- 図 9-3 家計の主たる担い手
- 図 9-4 家計の主たる担い手（本人以外）の年収（わからない・答えたくないを除く）

- 図 9-5 本人の年収（わからない・答えたくないを除く）
- 図 9-6 年間の勤務日数
- 図 9-7 家庭の経済状況（わからないを除く）
- 図 9-8 将来展望
- 図 9-9 母親の働き方
- 図 9-10 母親の「女性が働くこと」についての考え
- 図 9-11 父親の「女性が働くこと」についての考え
- 図 9-12 配偶者・パートナーの年齢
- 図 9-13 配偶者・パートナーの最終学歴
- 図 9-14 配偶者・パートナーの就業形態
- 図 9-15 共働き経験
- 図 9-16 家事分担
- 図 9-17 配偶者・パートナーの「妻が働くこと」についての意識
- 図 9-18 「対等な関係性」についての考え
- 図 9-19 子どもの有無・人数
- 図 9-20 育児分担
- 図 9-21 人的育児サポート
- 図 9-22 育児支援サービス
- 図 9-23 第 1 子出産時の産休・育休取得
- 図 9-24 第 1 子出産時の産休・育休取得期間
- 図 9-25 第 2 子出産時の産休・育休取得
- 図 9-26 第 2 子出産時の産休・育休取得期間

